

遠野市地球温暖化対策実行計画
平成 23 年度実績報告

平成 25 年 1 月

1 遠野市地球温暖化対策実行計画の取り組み

(1) 概要

この計画は地球温暖化の防止を図るため、「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、「ふるさと遠野の環境を守り育てる基本条例」の趣旨を踏まえて、平成19年3月に策定し、同年4月から取り組みを進めてきました。

平成24年3月、計画期間が満了したことに伴い、平成24年度以降も温室効果ガス排出削減に努めていくため、「第二次地球温暖化対策実行計画」を策定しました。

(2) 計画の期間と目標

基準年度を平成15年度とし、平成19年度から平成23年度までの5年間としています。平成23年度における二酸化炭素の排出量8%削減を目指し取り組んできました。

また、第二次実行計画は基準年度を平成22年度とし、平成24年度から平成27年度までの4年間の計画の期間としています。

平成27年度の二酸化炭素の排出量を基準年度と比較し4%削減することを目標とします。

(3) 対象とする範囲

①対象とする活動

市の全ての事務及び事業の実施に伴う活動とします。ただし、市から委託されて施設管理等の業務を行っている委託業者に対しては協力を求めることとします。

②対象とする温室効果ガス

二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボンの4種類とします。

このうち、温室効果ガス排出量割合の99.9%を占める二酸化炭素の削減に直接貢献する項目について、数値目標を定め、施設を設定して全体の取り組みを進めます。

(4) 取り組み項目

温室効果ガス削減のための数値目標を掲げた項目を重点項目とします。

- ・ 電気の使用量の削減
- ・ 燃料設備における燃料使用量の削減
- ・ 公用車燃料使用量の削減

このほか、温室効果ガス削減につながる配慮項目として、可燃ごみ排出量の削減や廃棄物リサイクル率の向上などにも取り組みます。

東日本大震災の影響について

平成23年度は東日本震災以降、沿岸被災地後方支援の活動拠点として様々な団体に施設を開放したことによる活動量の増等から、例年との比較が難しくなっています。

- [主な要因]
- ・ 本庁舎の倒壊による機能の分散化
 - ・ 地区センター等の燃料等の使用量増
 - ・ 被災地への支援活動による公用車燃料の増

◇活動量実績 温室効果ガス(二酸化炭素)総排出量:

7,793,205.2kg-co2 (平成23年度の市の事務・事業に伴うもの)

- ・平成22年度との比較----- **2.1% 増**
- ・排出量の構成 ----- 電気使用量 71.6%
- 燃料設備用燃料 25.3% (A重油、灯油、LPガス)
- 公用車燃料 3.1% (ガソリン、軽油)

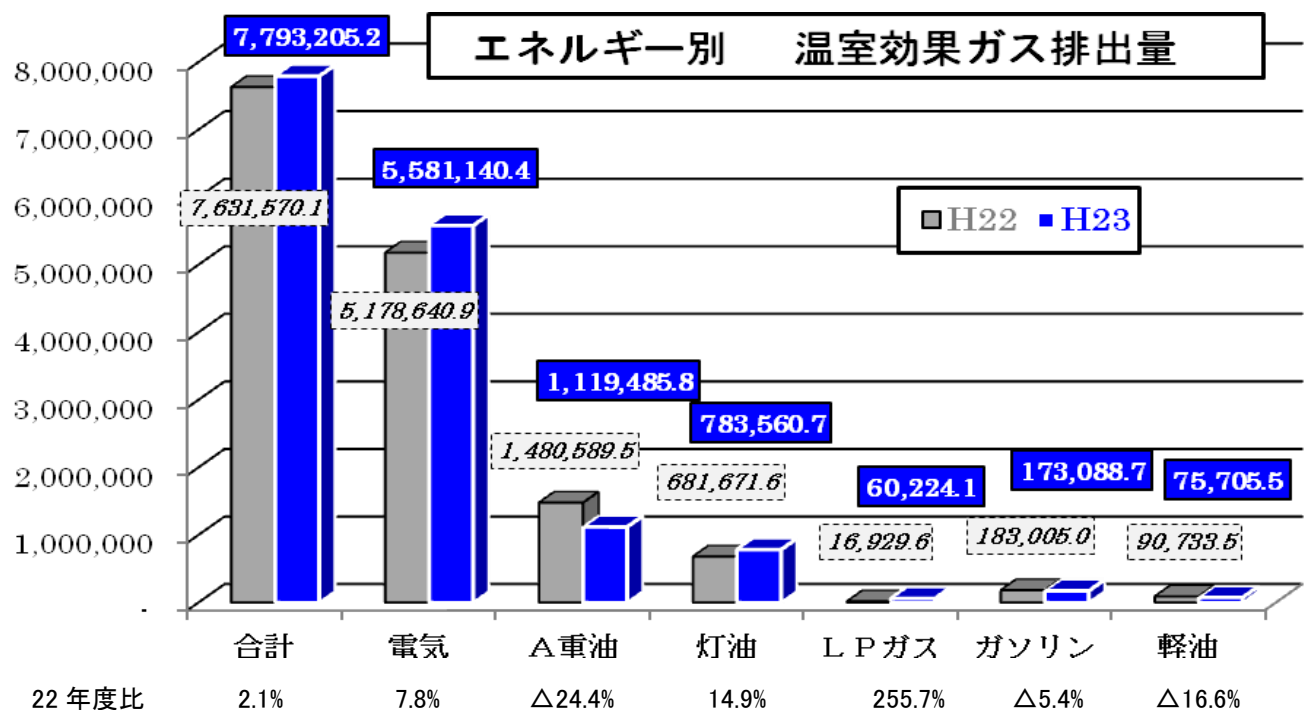
※平成22年度に対して、電気使用量が7.8%、灯油使用料が14.9%、LPガス使用量が255.7%上回る排出量となりました。

○ 温室効果ガス排出状況

単位 kg-co2

項目	平成22年度 排出量	平成23年度		平成23年度 目標値 (目標年)	
		排出量	22年度比 増減率		
二酸化炭素	7,631,570.1	7,793,205.2	2.1%	二酸化炭素 総排出量 8%削減	
電気使用量の削減	5,178,640.9	5,581,140.4	7.8%		
燃料設備における 燃料使用量の削減	A重油	1,480,589.5	1,119,485.8		△24.4%
	灯油	681,671.6	783,560.7		14.9%
	LPガス	16,929.6	60,224.1		255.7%
公用車燃料使用量 の削減	ガソリン	183,005.0	173,088.7		△5.4%
	軽油	90,733.5	75,705.5		△16.6%

○ エネルギー別温室効果ガス排出量



① 電気の使用量

総使用量 平成 23 年度 5,581,140.4kwh (前年度比
平成 22 年度 5,178,641.0kwh 7.8%増)

○ 前年度比で増減率の高い施設

	施設名等	使用量 (Kwh)	前年度比	全体割合	内 容
増	環境課 (斎場, 八幡墓園)	H23	1,577.0%	2.9%	新斎場の稼働及びロードヒーティングの新設
		H22			
減	小友中学校	H23	△34.3%	0.5%	震災の影響などにより、こまめな節電を徹底
		H22			

○ 使用量の大きい施設

	施設名等	使用量 (Kwh)	前年度比	全体割合	電気使用の内容など
1	清養園 クリーンセンター	H23	1.1%	29.8%	施設利用者の増等による H22 : 28,129 人 H23 : 49,417 人
		H22			
2	水道事務所 下水道担当	H23	5.8%	13.1%	浄化センターがボランティア団体の活動拠点となり、使用量が増した。 H22 1,001,620 m ³ H23 1,095,613 m ³
		H22			
3	水道事務所 上水道担当	H23	13.4%	11.7%	一般家庭、事業者等の水道水使用量増による H22 2,223,837 m ³ H23 2,233,579 m ³
		H22			
4	地域生活課	H23	21.2%	8.0%	市民センター利用者の設備及び冷暖房利用の増
		H22			
5	環境課 (斎場, 八幡墓園)	H23	1,577.0%	2.9%	新斎場稼働及びロードヒーティングの新設による
		H22			

○ 電気の使用量について

前年度比 7.8%増の結果となりましたが、主な要因として東日本大震災での本庁舎の倒壊による庁舎移転の影響が大きく出ました。

また、自衛隊や各種団体の活動拠点となった施設での使用量の増もありました。

マスコミなどでは夏季の節電について広く周知されていますが、冬期間の暖房に使用される電気量も増がみられます。

一方、前年度よりも使用電力量が減となった施設は、全 79 施設中 23 施設あり、各職員が積極的に節電に取り組んだ成果であると思われまます。

② A 重油の使用量 前年度比 24.4%減

○ 前年度比で増減率の高い施設

	施設名等	使用量 (ℓ)		前年度比	全体割合	A重油使用の内容など
		H23	H22			
増	上郷地区 センター	H23	10,300.0	28.8%	1.3%	大震災によるボランティアの拠点となったため暖房使用増
		H22	8,000.0			
減	林業振興課	H23	0.0	△100.0%	-	木質チップボイラーの稼働による重油の不使用
		H22	14,781.0			
	管理情報課 (本庁舎)	H23	0.0	△100.0%	-	暖房設備の灯油仕様への変更
		H22	42,000.0			

○ 使用量の大きい施設

	施設名等	使用量 (ℓ)		前年度比	全体割合	A重油使用の内容など
		H23	H22			
1	地域生活課 (市民センター)	H23	142,000.0	△23.4%	34.3%	暖房施設の効率的活用
		H22	183,000.0			
2	遠野給食 センター	H23	74,000.0	△2.6%	17.9%	暖房施設の効率的活用
		H22	76,000.0			
3	福祉課 健康福祉の里	H23	54,000.0	△10.0%	13.1%	暖房使用の徹底管理と効率的な活用
		H22	60,000.0			
4	清養園 クリーンセンター	H23	30,000.0	△14.3%	7.3%	こまめな暖房の調整により、増を抑えた
		H22	35,000.0			
5	とぴあ庁舎	H23	24,000.0	-	5.8%	暖房で使用
		H22	-			

○ A重油の使用量について

前年度比で24.4%の減となりました。

主な削減の理由として、本庁舎や学校などの暖房がA重油施設から灯油及び木質チップボイラー(再生可能エネルギー)への移行、また本庁舎の主な機能がとぴあ庁舎に移転したことがA重油削減の理由となっています。

③ 灯油の使用量 前年度比 14.9%増

○ 前年度比で増減率の高い施設

	施設名等	使用量 (ℓ)		前年度比	全体割合	灯油使用の内容など
		H23	H22			
増	遠野中学校	H23	13,897.0	449.0%	4.4%	暖房設備を重油から灯油へ切り替え 暖房使用量の増
		H22	2,532.0			
減	宮守 ゆう YOU ソフト館 文化課	H23	400.0	△66.3%	0.1%	暖房使用量の減 利用者数 H22 1,941 人 H23 1,776 人
		H22	1,187.0			

○ 使用量の大きい施設

	施設名等	使用量 (ℓ)		前年度比	全体割合	A重油使用の内容など
		H23	H22			
1	清養園 クリーンセンター	H23	30,436.0	3.1%	9.7%	「よねつの湯」補助燃料(灯油) の使用量の増 (利用者 H22 : 28,129 人 H23 : 49,417 人)
		H22	29,521.0			
2	文化課 図書・博物館	H23	29,235.0	4.2%	9.3%	暖房使用量の増
		H22	28,060.0			
3	遠野北小学校	H23	21,444.0	41.0%	6.8%	暖房の使用量の増
		H22	15,212.0			
4	環境課 (斎場, 八幡墓園)	H23	20,764.0	△38.7%	6.6%	主に斎場で使用 新火葬炉による効率化 (火葬件数 H22 : 589 件 H23 : 582 件)
		H22	33,895.0			
5	松崎地区センター	H23	17,862.0	-	5.7%	室内温度の徹底管理、職員の 節約意識の向上
		H22	-			

○ 灯油の使用量について

庁舎機能移転や重油使用施設の故障によるA重油から灯油への使用の切り替えのほか、寒さの厳しかった冬期間の暖房での使用量の増がみられました。

④ LPガスの使用量

前年度比 : 255.7%増

○ 前年度比で増減率の高い施設

	施設名等	使用量 (kg)		前年度比	全体割合	灯油使用の内容など
		H23	H22			
増	綾織地区センター	H23	9,084.0	16,121.0%	45.3%	自衛隊の支援拠点としての使用量の増(風呂など)
		H22	56.0			
減	管理情報課本庁舎	H23	45.1	△82.0%	0.2%	庁舎移転による使用量の減
		H22	249.9			

○ 使用量の大きい施設

	施設名等	使用量 (kg)		前年度比	全体割合	A重油使用の内容など
		H23	H22			
1	綾織地区センター	H23	9,084.0	16,121.0%	45.3%	自衛隊の支援拠点としての使用量の増(風呂など)
		H22	56.0			
2	宮守給食センター	H23	4,293.0	△0.9%	21.4%	例年並みの使用量
		H22	4,330.0			
3	福祉課健康福祉の里	H23	1,500.0	△22.0%	7.4%	効率的利用による使用量の減
		H22	1,407.0			
4	水道事務所下水道担当	H23	762.8	△39.8%	3.8%	設備の補修完了による運転の正常化
		H22	1266.1			
5	遠野給食センター	H23	717.8	△0.9%	3.6%	例年並みの使用量
		H22	724.3			

○ LPガスの使用量について

東日本大震災の影響が顕著に現れました。

綾織地区センター前のグラウンドが自衛隊の宿营地となり、入浴、食事の準備などでプロパンガスの使用量が前年度の160倍以上となりました。

他の課や施設については、前年度並みもしくは積極的に省エネルギーに取組み、使用量は減少しています。

⑤ 公用車燃料(ガソリン)の使用量

前年度比: 5.4% 減

○ 前年度比で増減率の高い施設

	施設名等	使用量 (ℓ)		前年度比	全体割合	灯油使用の内容など
		H23	H22			
増	都市計画課	H23	1,814.7	242.4%	2.4%	公用車の1台追加及び業務による公用車の使用増
		H22	748.5			
減	健康長寿課	H23	4,639.9	△39.1%	6.2%	公用車利用の効率化、省エネ車両の導入など
		H22	7,621.9			

○ 使用量の大きい施設

	施設名等	使用量 (ℓ)		前年度比	全体割合	A重油使用の内容など
		H23	H22			
1	管理情報課 本庁舎	H23	21,408.8	△7.2%	30.0%	公用車利用の効率化、省エネ車両の導入など
		H22	23,079.5			
2	水道事務所 上水道担当	H23	5,805.0	20.8%	7.8%	水道施設の点検・補修等の公用車使用増
		H22	4803.9			
3	福祉課 健康福祉の里	H23	4,994.4	55.9%	6.7%	被災地への震災支援及び市内の巡回等による
		H22	3,203.3			
4	健康長寿課	H23	4,639.9	△39.1%	6.2%	公用車使用の効率化、省エネ車両の導入など
		H22	7,621.9			
5	消 防 保安施設課	H23	4,268.0	△29.8%	5.7%	震災による緊急市外出動の減
		H22	6,088.0			

○ ガソリンの使用量について

東日本大震災の影響による使用量の増があった施設がありましたが、全体的には、省エネ車両の導入などにより、使用量は削減されました。一方、関係各課において、被災地支援のほか、市内被害の確認、一人暮らし世帯の巡回など、例年になく活動が多かったのも増加の要因となっています。

⑥ 公用車燃料(軽油)の使用量

前年度比:16.6%減

○ 前年度比で増減率の高い施設

	施設名等	使用量 (ℓ)		前年度比	全体割合	灯油使用の内容など
増	文化課 図書館	H23	2,426.5	695.2%	8.3%	被災地への配本活動による使用量の増
		H22	349.0			
減	地域振興課 宮守総合支所	H23	182.5	△88.4%	0.6%	公用車使用の効率化及び軽油仕様車の減による使用量の減
		H22	1,569.4			

○ 使用量の大きい施設

	施設名等	使用量 (ℓ)		前年度比	全体割合	A重油使用の内容など
1	建設課	H23	12,936.3	△13.0%	44.1%	除雪件数の減
		H22	14,872.0			
2	清養園 クリーンセンター	H23	4,132.0	13.2%	14.1%	作業用車両の使用量増
		H22	3,650.0			
3	管理情報課 本庁舎	H23	3,247.1	△25.4%	11.7%	公用車活用の見直し及び軽油仕様車の減による
		H22	4,350.2			
3	文化課 図書館	H23	2,426.5	695.2%	8.2%	被災地への配本活動による使用量の増
		H22	349.0			
3	水道事務所 上水道担当	H23	1,892.0	1.9%	10.5%	ほぼ例年並み
		H22	3,201.4			

○ 軽油の使用量について

軽油仕様車の減、積雪が前年と比べて少なかったことによる除雪出動の減など、全体的に使用量は減少となりました。

また、震災被災地への支援活動で使用量の増がみられた課（文化課）もありました。

2 取組状況について

(1) 全庁対象

職員ポータルやエコオフィス活動ポスターの庁内掲示等を通じて全職員に呼びかけを行ったほか、各課の推進員を通じて周知し、職員一人ひとりの意識の向上及び各課等での取り組みの徹底を図りました。

(2) 課ごとの取組み

また、各課等から取組状況調査票（様式 1）や職員の取組状況（様式 1-2）、活動量調査票（様式 2-1、2-2、2-3）を四半期ごとに提出を受け、取組状況及び温室効果ガスの排出量等について取りまとめを行い、年間取りまとめの際、各エネルギーの前年度との比較を各課で行い、今後の取り組みへ向けての課題を探ってもらいました。

昨年度に引き続き、温暖化対策にむけての重点取組項目及びその他取組項目を設定して取り組みを行い、毎月各課等で実施状況の評価を行いました。

各課等で設定した重点取組項目は、「電気の適正使用」「公用車の適正使用」「ごみの減量」など全体で 10 項目、その他取組項目は「省エネルギーの推進」「省資源の推進」「廃棄物の削減とリサイクル」など全体で 6 項目でした。総じて、実施状況評価は「よく実施している」「概ね実施している」となりました。

3 事務用紙購入額、水道使用量、可燃ごみ排出量について

(1) 実績値

年 度	事務用紙購入額(円)	水道使用量(m ³)	可燃ごみ排出量(kg)
平成 21 年度 (前年度比)	2,587,573 (△0.9%)	44,636 (△1.8%)	10,834 (△21.5%)
平成 22 年度 (前年度比)	3,236,204 (79.5%)	86,522 (93.8%)	9,683 (△10.7%)
平成 23 年度 (前年度比)	4,671,479 (69.1%)	100,754 (16.4%)	6,490 (△33.0%)

(2) 取組状況

平成 23 年度の水道使用量及び事務用紙購入額は、前年度に対して増しました。主に東日本大震災に伴う活動と考えられます。その中で、可燃ごみの排出量が 3 割以上減したことは、職員一人ひとりがごみの分別(紙ごみ、プラスチックごみ)に自覚を持って取り組んだ成果であると思われます。

4 課題と今後の取り組み

(1) 課題

① 第二次遠野市地球温暖化対策実行計画の見直し

平成 24 年 3 月に策定した本計画は、東日本大震災以前に策定したものであり、大震災を契機に庁舎の分散化等、策定時の状況と大きく変化しているため、現状に合わせて実行計画の見直しを行う必要があります。

② 使用エネルギーの削減（直接的な温室効果ガス排出抑制）

平成 23 年度の温室効果ガス総排出量は、平成 22 年度と比較すると 2.1%の増となっています。

平成 22 年度と比較し使用量が増している灯油、LP ガス、また温室効果ガス排出量全体に占める割合が大きい「電気使用量」の削減に向け、各課等ごとに平成 22 年度と平成 23 年度の活動量の比較検証の実施や遠野市地球温暖化対策実行計画による温室効果ガス排出量削減のための具体的取組内容を基に話し合いながら、それぞれ各課等に適した方法で取り組みを進めていくことも必要です。

施設稼働による使用量は、市民の生活環境・利用状況などとも密接に関係しており、使用量を削減するための取り組みについては難しい部分もあるため、適正な維持管理を行いながら再生可能エネルギー・省エネルギー設備の導入・更新などを進めていくことが必要です。

③ 事務用紙購入額、水道使用量、可燃ごみ排出抑制 （間接的な温室効果ガス排出抑制）

標記については、印刷やコピー前の原稿確認及び印刷機等の設定の徹底、紙資源ごみ用及びプラスチック製容器包装の収集箱を設置、可燃ごみの削減など、各課において、また職員個人でもごみの分別を徹底していくことが必要です。

(2) 今後の取り組み

① 第二次遠野市地球温暖化対策実行計画の見直し

平成 24 年度以降においては、大震災の影響のほか、新しい施設（総合防災センター、総合食育センター、文化研究センター、あすもあ遠野、中学校の再編など）の供用開始により施設が大幅に変更となり、以前の活動実績との比較が困難になることから、平成 25 年度において第二次実行計画の見直しを行います。

② 使用エネルギーの削減（直接的な温室効果ガス排出抑制）

温室効果ガス排出量削減は、職員一人ひとりの意識が重要となります。

個々の機器の電源をこまめに落とす、資源の使用節減に努めるなど、小さなことから積み上げ進めなければなりません。計画の推進のため、推進員を通じて周知しながら、今後も職員ポータルへの掲示など取り組みを進めます。

- ・ 年 2 回の推進委員会及び推進員会議の開催
- ・ 照明の間引きや消灯
- ・ パソコンの省電力設定やこまめな電源切断
- ・ クール及びウォームビズの徹底

③ 事務用紙購入量、水道使用量、可燃ごみ排出量抑制

(間接的な温室効果ガス排出抑制)

- ・事務用紙購入量の削減
→印刷やコピー前の原稿確認及び印刷機等の使用後リセットや設定確認の徹底
- ・水道使用量の削減
→節水の徹底
- ・可燃ごみ排出抑制
→紙資源ごみ及びプラスチック製容器包装の収集箱を設置し、ごみ分別の徹底
- ・通知、お知らせなどは職員ポータル及び庁内メールを利用し、紙使用の節制

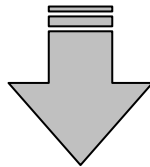
④ 再生可能エネルギー・省エネルギー設備の導入

備品、設備の導入時には進んで省エネルギー効果の高いものを導入します。

また、再生可能エネルギー設備の導入については、遠野型エネルギー地産地消を取り組み、遠野らしさのこだわり、災害等の防災対策等を意識しながら検討を進めます。

さらに、日常の事務・事業活動のなかの職員一人ひとりの自主的な取り組みとして、平成23年度に引き続き、温室効果ガス排出量状況の全体の占める割合が大きいの「電気使用量」の削減に向け、下記の項目の徹底を図ります。

職員の意識徹底



各課推進員の活用
研修会の開催
職員ポータルの活用 等

- 自席を離れる際にはパソコンの画面だけでも電源を切る
- 印刷前の確認の徹底（コピー機の設定確認や印刷ミスの低下）
- お互いに呼びかけあい、機器の電源、車の運転方法の見直しを図る
- 紙、容器包装プラスチックなど分別を徹底する。

※ 庁舎内のごみ箱を見ると、紙ごみ及びプラスチック製容器包装が分別されないままごみ箱に入っている例が見受けられる

→ 平成27年10月からの中部広域行政組合運営の焼却施設の稼働にむけ、市職員から率先して分別に取り組んでいくことが必要です。通常業務のほか、行事、イベント後などにも気を付けて分別に取り組む必要があります。

地球温暖化対策実行計画推進組織図

